

社会福祉法人 宰府福祉会 ～一人ひとりを大切に～

2024. 4

38号

社会福祉法人 宰府福祉会
http://saifu-fukushikai.com

法人本部事務局

福岡県太宰府市大佐野761-1

発行責任者：草本武俊

編集委員会

わかたけ



宰府園



ゆり工房



やまもも

令和6年度 START



さいふ



すみれ園



にじ

目次

- | | | | | |
|--------|---------------------|---|------|-------------------|
| 2ページ | 理事長挨拶「2024年にあたって」 | ／ | 3ページ | 令和6年度法人の主な計画事業と予算 |
| 4ページ | 本部長挨拶「新年度のあいさつ」 | ／ | 5ページ | 宰府福祉会ニュース&トピックス |
| 6・7ページ | 令和6年度私たちは〇〇をがんばります！ | | | |
| 8ページ | 災害に対しての取り組み | | | |

～「いつでも気軽に利用できる福祉サービス」を目指して～

令和6年度の事業開始にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今年も桜と菜の花の咲く春の陽光の中に新年度を迎えることができました。これはひとえに利用者ご家族をはじめ地域の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。同時に職員の皆様や関係者の皆様の努力に対してお礼申し上げる次第です。

さて、今後、法人が実現しようとしている計画、その考え方、方向性、目標を、わかりやすくして共通指針として実践していくための「宰府福祉会のコンセプト」を昨年より作りました。

コンセプトを作ることによって、利用者に対してどのような支援をすべきか明確になります。また支援の実践でプレが少なくなります。何よりも利用者のニーズに対応することができると思っております。その結果として、良い支援や良いサービスの提供に繋がります。ひいては発展的な事業運営と法人経営ができると思っております。

法人コンセプト「障がい福祉の充実と共生社会の推進」—いつでも気軽に利用できる福祉サービス—（子供から高齢者まで利用できるサービス、障害の重い人も家族も利用できるサービス、生活の基本を大切にする適切なサービス、気軽に立ち寄れる場所）を目指して、これから、積極的に継続して、職員の皆さん全員で取り組んでまいります。

法人施設の中に開設47年を経過した施設もあることから、利用者（児）の状況も、障がいの重度化や高齢化している状況です。ご家族も高齢化し、親子含めて要支援になってきているのが現状です。また支援実践上からも、障がい福祉サービスや障がい児の通所サービスの提供上の課題や改善点が多く出てきており、そして、新たに必要と考える事業や取り組みが必要なものも多くあります。そのほか、障がい者（児）自身の健康や日常生活上の問題点や課題も多くなっているのが現状です。

こういった問題や課題に対して、法人事業計画と各施設の事業計画によって事業の推進とサービスの向上を図っているところです。また少子高齢化の中で、人材不足もあって、職員の求人採用の難しさを近隣のボランティアの方々や地域の高年齢者の業務の応援があって、業務をカバーしていただき事業の推進を図っているところです。



さて、前々からの計画であった「宰府福祉会 地域生活支援センター」の起工式を3月19日にやっと実施することができました。太宰府市の楠田市長さん市議会の議長さん委員長さんを始め、近隣の区長の皆様に集まっていたいただき、工事の安全と完成を祈願し着工することができました。これまでご協力いただいた多くの方々に大変感謝を申し上げます。

本年度は、法人コンセプトである「いつでも気軽に利用できる福祉サービス」の実現に向けて努力するとともに、「宰府福祉会 地域生活支援センター」の開設準備をしていくことにしています。そして今求められている職員の働き方改革とサービスの質の向上に取り組んでいくことにしております。その主な取り組みとしては、サービスを標準化しサービスの質の向上を図ること、それと業務の標準化と効率化によって、生産性の向上に向けて取り組んでいきます。

このコンセプトの取り組みを続けることによって、利用者の皆様が主体性をもち一人ひとりが自己実現に向けて、少しでも「ウェルビーイングな生活」ができる支援になるように期待しているところです。

利用者やご家族の皆様をはじめ地域の皆様方にも、この「法人コンセプトの取り組み」について、ご理解とご支援をいただき、地域の中の施設として、住民のひとりとして、より障がいのある方々と交流を深めていただければと思っております。

どうぞ今年度もよろしくお願いを申し上げます。

○令和6年度 法人の主な計画事業と予算

第3次中期経営計画のビジョン実現に向けて、法人全職員が熱意を持って取り組んでいます。より目標の実現に近づくために、昨年、「法人事業のコンセプト」を作成しました。
今年度は、「法人コンセプトの実践の年」として、「5年後のビジョン」実現に向けて、以下の通り、取り組んでいきます。

宰府福祉会
コンセプト
～共通指針～

🌟 障がい福祉の充実と共生社会の推進

☆いつでも気軽に利用できる福祉サービス

- ・子どもから高齢者まで利用できる福祉サービス
- ・障がいの重い人も家族も利用できるサービス
- ・生活の基本を大切にする適切なサービス
- ・気軽に立ち寄れる場所

地域貢献事業の推進

- ・地域貢献事業の実施
- ・災害対策の充実
- ・広報戦略の推進

財務体質の強化

- ・収支管理
- ・適切なコスト管理

サービスの質の向上

- ・サービスの自己評価の実施
- ・サービスの標準化
- ・利用者の人権擁護体制の充実
- ・地域生活支援等の充実

内部管理体制の充実

- ・法人経営と事業経営の充実
- ・業務の標準化
- ・法人組織の管理体制の充実

よろしくお願ひします

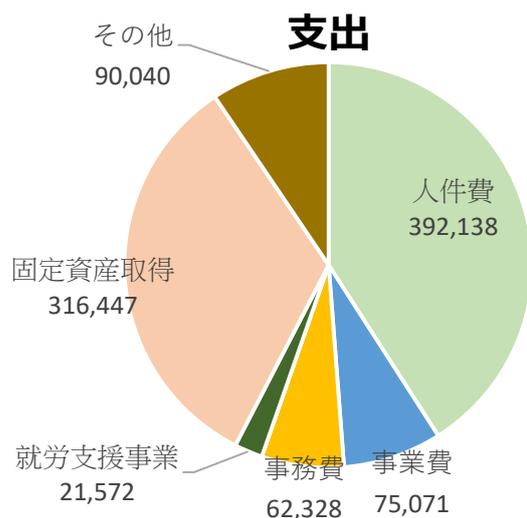
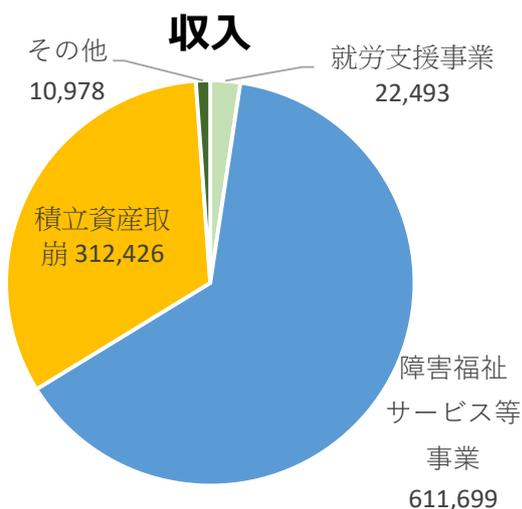


総合的人材マネジメントの充実

- ・ルールブックの作成
- ・人事評価制度の効果的運用
- ・法人職員研修の充実
- ・人材採用と人材育成制度の再構築と実施

令和6年度 宰府福祉会 予算

(単位：千円)



「新年度のあいさつ」

本部長 深町 美代子



日頃より当法人の事業経営につきまして、温かいご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

昨年度は、事業経営にとって多くの解決すべき課題への対応があるなかで、特に人件費の原資の確保と、人材不足が全国的に深刻化となり当法人においても人材確保、採用・育成・定着に力を入れ取り組んで参りました。また、各拠点施設の組織運営・人事労務等の調整・指導助言を行って参りました。皆様のご協力により、着実に進めることができましたことに感謝申し上げます。

さて、今年度法人の事業計画につきましては、「宰府福祉会 第3期中期経営計画」の3年目となります。この中期経営計画で定めた重点実施項目に基づき、その目標の実現に向けて積極的に取り組み、事業計画を推進いたします。特に、法人事業計画の推進の事務業務を徹底・確実にして、法人コンセプト「いつでも気軽に利用できる福祉サービスに努める」を実現してまいります。

そのためには、安定した経営の維持を確実に進めて行くことが重要です。喫緊の経営課題の一つに物価高騰があり、物価動向も変化することが見込まれています。今年度の報酬改定による支援現場の対応と、その影響を細かく見極めながら対応を適宜行ない、安定した経営の維持に努めていきます。

同時に、働き方改革、環境づくりも進めて人材を確保することを目指しています。

昨年度は、職員の資質向上、育成、定着を目的として、「資格取得支援制度」、「奨学金返還支援制度」を整備いたしました。さらなる人材確保に向けて、多様な雇用の拡大に取り組んでいきます。今後は職員区分の増設や有給休暇取得の奨励など、働く環境の整備をさらに進めなければなりません。そのために、まずは業務の標準化に着手して、業務の効率化と生産性を向上させていくことを進めてまいります。

これからは、ますます多様な人材が増えていくなか、同時に働き方や価値観の多様化も進みます。そのような環境に対応しつつ、安定した組織力を構築・向上維持が重要です。さらに財政基盤を維持し、職員一人ひとりの生産性を向上して、社会福祉法人としての役割に尽力していきたいと思っています。

どうぞ今後とも、皆様方のご理解とご指導をよろしくお願いいたします。

● 起工式



令和6年3月19日（火）に「宰府福祉会 地域生活支援センター増築工事 起工式」が執り行われました。太宰府市長 楠田 大蔵様をはじめ、関係者の皆様、お忙しい中、参加していただき、誠に感謝申し上げます。



鍬入れ



四方祓

● 職員研修会



3月に行われた法人職員研修会では、令和6年度のスタートに向けて法人及び各施設の今後の事業方針などが示されました。また、現場の職員からも各事業の課題や取り組み等について発表がなされ、参加職員全員で法人内事業についての共通認識を図り理解を深めました。

宰府福祉会が法人の利用児者やご家族、地域の福祉ニーズに応じていくには、法人内施設及び職員間の連携と協力がより一層重要となってきます。令和6年度も研修委員会では、全体観に立って業務を遂行できる法人職員の育成を目指して、研修を行ってまいります。

本部マネージャー 開裕美



理事長講和「令和6年度は法人コンセプト実践の年」



グループワークの様子

● 新入職員研修

今年度は4月1日付で3名の職員が入職しました。本部での新入職員研修会では、緊張の面持ちながらも、これから福祉に携わっていく者として学びを得ようとする真剣な新入職員の姿がありました。2日目からは配属先での実践を繰り返していく中で、支援者としての研鑽を積んでくれることと思います。

本部マネージャー 開裕美



令和6年度 私たちは

法人本部

事務局

コンセプト実現のために

私たちは、法人事業計画のコンセプト「いつでも気軽に利用できる福祉サービス」を実現させるために、業務基準書の整備と、事務職員の業務を標準化することに尽力します。

非効率な業務や、その人がいないと進まない属人化された業務を防止して、事務レベルの底上げを図ります。そして、サービスの質の向上につながるような運営を行い、事務職員一丸となって法人事業計画が達成できるように努めます。

マネージャー 藤原美智子



相談支援センター

地域福祉の向上を目指して

やまもも・すみれ園相談支援センターです。今年度も、井上、内園の2名の相談支援専門員で相談支援業務を行っています。福祉サービスの受給者証にかかわる業務を主に行っています。筑紫地区の自立支援協議会にも参加しながら、地域福祉の向上を目指して行政と一緒に取り組んでいきたいと思っております。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

管理者 井上雅代



令和6年度もよろしくお願いいたします！

宰府園

「宰府園」(入所)「さいふ」(通所)は今年度も地域とのつながりを大切にします！

昨年度は「宰府園」において、太宰府市社協主催の「こども福祉体験」に参加し、近隣小学生たちと交流を図ったり、福岡県立高等学校の皆さんがファッションショーや和太鼓演奏で来園してくれました。運動や見守り(傾聴)のボランティアさんも定期的に来園し、利用者のみなさんと関わっています。

「さいふ」では、特別支援学校の実習生を多く受入、また、社会福祉士実習や介護等体験の学生もたくさん受け入れました。自治会夏祭りや文化祭では限られたメンバーではありましたが、販売で交流もできています。

今年度は8月に地域貢献事業を、10月には久しぶりに「宰府園まつり」を予定しており、地域のみなさんに向けて交流を中心とした企画を考えているところです。

今、「地域生活支援センター」を建設中です。法人コンセプトである「誰でもいつでも気軽に利用できる」場所となるよう、まずは近隣、そして太宰府市をはじめとした筑紫地区のみなさんに知ってもらえるように「地域とのつながり」を大切にしていきたいです。そのためにも、職員は「標準化」に取り組み「(職員)誰でもいつでもできる」支援や業務のシステムづくりも頑張ります。

施設長 大内田美津子



「こども福祉体験会」みんなで集合写真♪



「福岡県立農業高等学校交流会」にて和太鼓演奏



地域ボランティア「オゾンバンド」さんのコンサート

「法人理念とコンセプトの実践」

令和6年度、やまももは新たな利用者職員を迎えスタートしました。ここ数年、利用者・ご家族・地域の方々から、様々な想いを伺います。今年度は、利用者の楽しいを支え、保護者の不安に寄り添い、地域活動に参加しながら、法人理念の「一人ひとりを大切に」とコンセプトである「いつでも気軽に利用できる福祉サービス」を実践していきます。

やまもも

施設長 岡田美幸



令和6年度のスタート



販売会 (にここマーケット)



コーラスクラブのひとコマ

〇〇をがんばります！

すみれ園

令和6年度、子どもたちの見通しを持てる環境づくりを頑張ります！

新年度になり、クラスや担任が変わり、新しいすみれ園生活の始まりです。児童発達支援は、4月から18名の子どもたちが入園しました。また、放課後等デイサービスは8名の新一年生が利用開始になりました。

子どもたち一人ひとりが「すみれ園楽しい」「もっと〇〇してあそびたい」「すみれ園に行ったら～できる」「友だちに会える」「先生と遊びたい」という見通しを持ち、すみれ園に通うことができるように、生活の見通しに着目し、環境づくりに努めます。

また、令和6年4月より児童発達支援センターの地域での中核機能強化の役割が明確化されました。少しずつ、地域の中で役割が担えるように、職員チームで取り組んでいきます。

施設長 矢野佳子



乗り物大好き



友だちと一緒にハイポーズ！友だちと一緒に遊ぶことが大好きです！



クッキング活動（ホットケーキづくり）の様子

支援の充実に向けて

今年度、ゆり工房は職員一丸となって利用者の皆様の支援の充実に向け、取り組んでいきます。利用者一人ひとりの心情をしっかりと受け止め、課題を把握し、支援方法を工夫しながら生産活動を中心に就労能力の向上と日常生活の充実を図り、やりがいを実感できる支援をしていきます。

地域やボランティアさんとも良好な関係を築きながら、障がいのある方々が地域において安心して生活を継続できるように、市をはじめ地域の関係機関、自治会等とも連携しながら地域共生社会の実現に向かって取り組んでいきます。

これからも、おいしいパンと温かみのある木工製品を作っていきます。今後ともゆり工房をよろしくお願いします。

施設長 中村勝利

ゆり工房



商品確認（はるひ）



スポーツレク（卓球）



パズル（木工）

にじ

～今年度に向けて～

令和6年度より障害者総合支援法が改正される中、4月から新たな職員体制でスタートしています。今年度は、まず報酬改定に応じた適正な運営を行っていきます。その上で利用者のみなさんが、安心して楽しく過ごして頂けるように活動内容の見直しや業務・サービスの標準化を図っていきながら全職員がしっかりと協力して取り組んで参ります。

また地域の中でのにじの役割を果たすことができるように法人本部・法人内事業所・地域と連携を行っていき利用者・ご家族の満足、そして地域貢献につながるよう取り組んでいきたいと思ひます。

本年度もどうぞよろしくお願い致します。

管理者 木原直輝



レクリエーション



創作活動の様子



ハッピーバースデー♪

● 災害派遣

令和6年1月1日、新しい年を迎えた喜びもつかの間、能登半島で大きな地震が発生し、悲しみが日本列島を覆いました。日が進むにつれて次々と被害状況が報道されますが障がい児者や福祉施設の状況についてはなかなか把握ができない状態でした。そのような中で職員の派遣要請があり、3月の1週間、当法人から2名の男性職員を石川県能登町の就労継続支援B型の事業所にて派遣協力をさせていただきました。

能登町までの交通は整っておらず、最寄りの駅からは車で2時間かけて現地に入るような状況でした。宿泊施設はなく、福祉施設の中で寝泊まりをしながら支援にあたりました。わずか1週間ではありましたが、この体験を法人職員研修会で発表してもらい全員で共有いたしました。

被害を受けた方々の支えに少しでもなればという思いで協力をさせていただきましたが、まだまだ現場では、大変な状況が続いているとのことです。被害にあわれました皆様思いをはせながら、日々の支援も頑張っていきたいと思っております。

相談管理者 井上雅代



宇出津市役所の様子



段ポールベッド



職員の感想

現地での生活では、飲料水は確保されていましたが、食事はインスタント類が中心、生活用水は十分でないのでトイレには紙を流さない、お風呂は週2回、同じ服をできるだけ着る、紙皿・紙コップを使い洗い物を減らす等の工夫をされていました。この状況は少し整備が進んでいたので、発生当初には道路は寸断され余震が続く中で断水が続き、物資不足や断水でトイレ・お風呂に食事を作るにも大変だったとのこと。

今回の派遣で私は避難訓練の大事さ、災害時の食料や備品の準備の大切さを学びました。今後この経験を活かしていきたいと思っております。

(ゆり工房 岡部)

元旦に能登半島地震の速報を受け、漠然と何か力になれることはないだろうか、出来ることならボランティアとして被災された方々の力になりたいと考えていました。そのような中、介護職員派遣で現地へ赴いて支援を行うというお話を頂き、被災地へと行かせていただきました。支援員の方や利用者の方とお話をさせていただく中で、地震発生時の恐怖や今後の生活に見通しが取れないことへの不安を感じる場面もありましたが、一丸となって復興に向けて前向きに考え、日々を過ごしておられておられました。皆さんの前向きさを見て、ひとりではなく一緒に頑張ろうと思う気持ちの大切さに気づかされました。今後も微力ながら復興に向けたお力添えが出来ればと考えております。

(すみれ園 待鳥)



● 福祉避難所開設訓練

2月1日、福祉避難所に指定されている「さいふホール」にて、大雨土砂崩れを想定した福祉避難所開設訓練が太宰府市主催で開催されました。

午後、大雨にて土砂崩れが発生するという想定の中、太宰府市の判断で福祉避難所を開設することが決定し、当法人が要支援者(避難者)を受け入れるという訓練です。

「さいふ」(通所)の数名が送迎を利用できない想定で、ホールに避難したり、「とびうめ体育館」に避難している要支援者(役)も車で運ばれるというシナリオのもと、計画通りに実施されました。太宰府市の災害専門官による災害に備えるための注意事項も大変勉強になりました。

奇しくも元旦に能登半島地震が起きたことを受け、訓練にも身が入りましたが、災害は想定外のことの連続と思われれます。「今、何が起きているのか」という情報の必要性を強く感じました。そのためにも、日常の訓練から声を出し合い、確認していくことが重要と気づきました。今後の訓練に生かしていきます。

宰府園施設長 大内田美津子



市役所職員の聞き取り



災害専門官の総評

● 義援金



令和6年能登半島地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日でも早い復興を心よりお祈りいたします。

法人内全事業所にて「能登半島地震義援金」の募金箱を設置(令和6年1月29日～2月29日)し、合計195,647円集まりました。各施設の所在地域の社会福祉協議会内共同募金を通じて被災地へ寄付させていただきました。皆様のご協力、心より感謝申し上げます。

宰府福祉会 職員一同

『編集後記』

令和6年度も新たにスタートを切りました。現在、宰府福祉会では、「地域生活支援センター(仮称)」の工事が始まったり、報酬改定への対応もあり、多様な変化が起きている真っ只中です。今現在は対応に追われる日々が続いています。

さて、宰府園では、今年の3月に野生の雉を見かけることが度々あり、何かの予兆かなと思い調べてみると、スピリチュアル的には、「大きな幸運が訪れる」「変化の暗示(新しい物事にチャレンジすると良い結果を得られる)」など、幸運の象徴でした。

雉の幸運にあやかり、未来に向かって、前進をしていきたいと思っております。

(広報委員 羽根田)

